

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	池田 浩之
2. 審査委員	主査：（兵庫教育大学 教授） 井澤 信三 副主査：（兵庫教育大学 教授） 宇野 宏幸 委員：（鳴門教育大学 教授） 大谷 博俊 委員：（兵庫教育大学 教授） 新井 肇 委員：（兵庫教育大学准教授） 中村菜々子
3. 論文題目	高機能自閉症スペクトラム障害者の心理的特性を踏まえた 就労支援プログラムに関する研究
4. 審査結果の要旨	<p>先端課題実践開発専攻先端課題実践開発連合講座 池田浩之 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：平成28年2月13日（土） 12時00分～13時00分 場所：兵庫教育大学 教育・言語・社会棟 302室</p> <p>1. 学位論文の構成と概要</p> <p>本論文は、以下に示す6章から構成された。</p> <p>第1章 問題と目的 第2章 HF-ASD（高機能自閉症スペクトラム障害）者の心理的特性の検討① 研究Ⅰ-1 HF-ASD者の心理的特性の検討～健常者との比較から～ 研究Ⅰ-2 HF-ASD者の心理的特性の検討～精神障害のある者との比較から～ 第3章 HF-ASD者の心理的特性の検討② 研究Ⅱ-1 HF-ASD者の心理的特性の検討～心理的特性の仮説モデル作成から～ 研究Ⅱ-2 HF-ASD者の心理的特性の検討～就労状況の違いから～ 第4章 HF-ASD者の就労支援プログラムの開発と効果の検討 研究Ⅲ-1 HF-ASD者の就労支援プログラムの開発と効果の検討 ～集団を対象とした就労支援プログラムの検討～ 研究Ⅲ-2 HF-ASD者の就労支援プログラムの開発と効果の検討 ～個別を対象とした就労支援プログラムの検討～ 第5章 HF-ASD者の就労支援プログラムの普及の検討 研究Ⅳ-1 HF-ASD者の就労支援プログラムの普及の検討 ～就労支援従事者を対象とした講座の検討～ 研究Ⅳ-2 HF-ASD者の就労支援プログラムの普及の検討 ～保護者を対象とした講座の検討～ 第6章 総合考察</p>

各章の概要は以下に示すとおりである。

本研究は、高機能自閉症スペクトラム障害者（HF-ASD者）の社会的スキルやストレス対処などの状態を心理的特性と捉え、HF-ASD者の基本的な障害特性から二次障害へとつながる心理的特性の特徴を明らかにすること、およびそれを踏まえた就労支援プログラムを開発することを目的としている。本論文は、全6章から構成されている。

第1章「問題と目的」では、HF-ASD者の障害特性、心理的特性による症状や特徴に関する先行研究を整理するとともに、HF-ASD者に対する就労支援に関する先行研究を概観し、現状と課題について検討している。それを通して、「障害特性」「心理的特性」「個別課題（生活・作業面）」といった3階層の就労支援の流れを提案している。

第2章「HF-ASD者の心理的特性の検討①」では、HF-ASD者の心理的特性について明らかにすることを目的に、心理的特性に関する尺度（AQ、Kiss-18、TAC-24、GHQ30）を指標として用い、HF-ASD者と、健常者（研究I-1）および精神障害者（研究I-2）との比較検討を行った。その結果、HF-ASD者の心理的特性は、健常者と精神障害者とは有意な差が示され、明らかに異なる状態像を示すことが示唆された。

第3章「HF-ASD者の心理的特性の検討②」では、まず、HF-ASD者の心理的特性の構造を明らかにするために、関連する先行研究の検討から心理的特性の仮説モデルを生成し、HF-ASD者の心理的特性に関する尺度のデータについて共分散構造分析を用いた検討を行った（研究II-1）。その結果、仮説モデルに若干の修正をしたモデルを採択することとなった。次に、HF-ASD者が安定して働けるための心理的特性の水準を明らかにすることを目的に行った（研究II-2）。HF-ASD者の当初（データ収集時）の就労の有無、その二年後の就労状況（就労継続の有無）を追跡調査し、「継続就労群／2年後就労群／2年後離職群／未就労群」による分散分析を行った。その結果、就労を継続している者とそうでない者について、その就労前の心理的特性に関する尺度（Kiss-18とGHQ30）において有意な差が見られた。その結果から、就労前の心理的特性の準備性を高めることの必要性を示唆している。

第4章「HF-ASD者の就労支援プログラムの開発と効果の検討」では、心理的特性を踏まえたHF-ASD者への就労支援プログラムの開発を行った。研究III-1「集団を対象とした就労支援プログラム（主に、心理教育・SST・問題解決法・ストレスマネジメント等）」と研究III-2「個別対象の就労支援プログラム」を作成・適用し、それぞれ効果の検討を行った。その結果、心理的特性の向上と、現実的に就職に至るといった効果を示した。

第5章「HF-ASD者の就労支援プログラムの普及の検討」では、開発した就労支援プログラムを普及するために、就労支援従事者と保護者を対象とした講座の実施し、その効果を検討した。結果、講座実施の前後における参加者の自己効力感や精神健康度に良好な変容が見られた。

第6章「総合考察」では、就労を継続する上でのポイントは、障害特性の程度ではなく、介入によって改善が見込まれる心理的特性の向上であることを指摘し、心理的特性を重視した就労支援プログラムの展開の重要性を指摘した。

2. 審査経過

(1) 研究目的と論文構成の整合性について

知的障害の伴わない自閉症スペクトラム障害（HF-ASD）者の課題の一つとして、就労及び就労継続が挙げられる。HF-ASDには、「社会性の障害」「コミュニケーションの障害」「想像力の障害」といった3つの主症状がある。HF-ASD者への就労支援を考えた場合、①3つの主症状（障害特性）に対する指導・支援を基礎とした上で、②心理的特性（社会的スキルとストレス対処など）、さらに③生活面・作業面・機関連携を含めた個別対応（個別性の高いことについての環境調整も含めた対応）も必要になると考えられる。本研究では、特に、心理的特性に焦点を当てた就労支援プログラムの開発を目的としている。この研究目的を明らかにするために、大きく3つの研究を構成している。第1にHF-ASDと心理的特性の特徴分析（健常者、精神障害者との比較）、第2にHF-ASDにおける心理的特性のモデルの構築、第3に、その心理的特性モデルに基づく就労支援プログラムの開発と普及の試み、といった論文構成となっている。本論文では、量的なデータの収集と分析に基づいた効果の検討、結果に基づいた考察といった科学的、論理的な研究展開をしている。論文として十分に整合性のある構成となっている。

(2) 学位論文としての独創性と発展性について

本論文における独創性は、①心理的特性に関する量的分析から得られた知見をもとに、HF-ASD者における種々かつ広範囲な症状を、「障害特性」「心理的特性（社会的スキルとストレス対処など）」「個別対応（生活面・作業面・機関連携による環境調整も含めた個別性の高い対応）」という3つの階層を設定した点、②その3つの階層モデルに基づいた就労支援プログラムの作成・開発に至っている点、③それを実用的な価値を持つように、講座形式による普及を試みている点、が挙げられる。さらに、研究の発展性としては、本論文では就労支援プログラムに参加するといった「就労意欲」を有している方を対象としているため、HF-ASD者の就労意欲の状態によって整理をしていくことにより、研究の深化が可能となる。同様に、多様な状態のHF-ASD者を就労意欲、自己理解、二次障害程度等による心理的特性の分析・検討を行うことにより、さらに発展させることができる。

(3) 学校教育の実践への貢献について

HF-ASD者への就労支援プログラムのエッセンスを組み込んだ就労支援従事者対象の講座においても一定の効果が見られたことより、福祉・労働等の分野における支援者が活用していくことが可能となっている。また、本論文における総合考察でも述べられているように、この心理的特性モデル、およびそれに基づいた就労支援プログラムにおけるエッセンスを、学校教育における発達障害のある生徒への個別的な指導・支援、またはキャリア教育の一部として取り入れていくことは可能であり、かつ活用されていくことが期待され、その効果も見込めると評価できる。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は 池田浩之 の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。